

(20230127Ver)

用語解説

検討にあたり、用語についての認識を共有できるよう作成しました。

項目	説明
BCP (事業継続計画)	【Business Continuity Planの略】自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の被害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画。
BRT	【Bus Rapid Transitの略】連節バス、PTPS(公共車両優先システム)、バス専用道、バスレーン等を組み合わせることで、速達性・定時性の確保や輸送能力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステム。
CASE	自動車に関する技術で、「Connected(コネクティッド化)」、「Autonomous(自動運転化)」、「Shared/Service(シェア/サービス化)」、「Electric(電動化)」の4つ頭文字をとったもの。
GTFS	【General Transit Feed Specificationの略】経路検索サービスや地図サービスへの情報提供を目的として策定された世界標準の公共交通データフォーマット。
ICT	【情報通信技術(Information and Communication Technologyの略)】情報処理や通信に関する技術を総合的に指す用語。
IoT	【Internet of Thingsの略】工場設備や航空機、発電所等のインフラ、自動車や家電など、様々なモノをインターネットにつなぎ、センサーなどから得たビッグデータを分析し、コスト削減や生産システムの効率化・最適化につなげること。
LRT	【次世代型路面電車システム(Light Rail Transitの略)】従来の路面電車から走行空間や車両等を改善させたもので、低床式車両の活用等により、乗降の容易性、速達性、定時性、快適性などの特徴を有する、人や環境に優しい都市公共交通システム。
PDCA	計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Act)のプロセスを順に実施し、このプロセスを繰り返すことによって、品質の維持・向上や継続的な業務改善活動を推進するマネジメント手法のこと。
QoL	【Quality of lifeの略】生活の質のこと。
MaaS	【Mobility as a Serviceの略】出発地から目的地までの移動に対し、様々な移動手段・サービスを組み合わせると一つの移動サービスとして捉えるもの。
インバウンド	外国人が訪れてくる旅行のこと。日本においては訪日外国人旅行。
美しい”ふじのくに” インフラビジョン	本県のインフラ整備の“羅針盤”として、県土づくりやインフラ整備の方向性などを示したもの。2050年の社会インフラの姿を見据えた上で、概ね10年間の基本理念と方向性並びに当初4年間で取り組む施策などで構成されている。
貨客混載	宅配便の荷物等の貨物と旅客を同じ車両で輸送すること。
課題	現状と目標の差(ギャップ)を埋めるためにやるべきこと
カーボンニュートラル	二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などの自然などに吸収される量、または除去される量を差し引いて、全体として差し引きゼロにするという考え方・取組。

項目	説明
グリーンスローモビリティ	時速 20 km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービス。
クロスセクター効果	地域公共交通を廃止した時に追加的に必要となる代替費用と、運行に対して行政が負担している財政支出を比較して把握できる地域公共交通の多面的な効果。
現状	現在の姿
コミュニティバス	法的な定義はないが、通常は、地域住民の日常生活の足の確保等を図るため、有償・無償を問わず、市町村等が主体的に計画し運行する一般乗合バスのことを指す。
サイクル&ライド	最寄りの駅や停留所、目的地の手前まで自転車で行って駐輪し、そこから鉄道やバスに乗り継ぐ移動方式。
シェアリングサービス	物品を多くの人と共有したり、個人間で貸し借りをしたりする際の仲介を行うサービスの総称。自動車・自転車の貸借手続きが手軽に行えるスマートフォン向けサービスなどがある。
自家用有償旅客運送	バスやタクシー事業者のサービス提供が困難な地域において、市町村やNPO法人等が自家用車を用いて有償で運送するサービス。
地域公共交通会議	地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の態様や運賃等に関する事項について協議するために、市町村長又は都道府県知事が設置・主宰する会議。
地域公共交通の活性化及び再生に関する法	地域旅客運送サービスの持続可能な提供の確保に資するよう地域公共交通の活性化及び再生のための地域における主体的な取組や創意工夫を推進し、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現に寄与することを目的として定められた法律。
超小型モビリティ	自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動の足となる1人～2人乗り程度の車両。
脱炭素	パリ協定で掲げられた、2050年までに二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを目指すために求められた政策。
デマンド交通	バスや電車などのようにあらかじめ決まった時間帯に決まった停留所を回るのはではなく、予約があった時のみ運行する移動サービス。
道路運送法	道路運送に関する総合法規であり、輸送の安全確保、利用者の利益の保護・増進を図ることを目的として、地域の重要な公共交通機関であるバス・タクシーの事業経営等に関し必要な規制・監督について定めた法律。
トリップ	パーソントリップ調査において、人がある目的をもって「ある地点」から「ある地点」に移動するときの1回の動きをいう。移動の目的が変わるごとに1つのトリップと数える。
二次交通	空港や鉄道の駅、港などの交通拠点から観光目的地までの交通のこと。バスや乗合タクシー、レンタサイクルなどが使われる。
ノンステップバス	床面を超低床構造として乗降ステップをなくし、高齢者や児童にも乗り降りが容易なバスのこと。車内段差を僅少にした設計により、乗降時、走行時とも安全性が高い。
パーク&ライド	自家用車で目的地に直接向かう代わりに、最寄りの駅や停留所、目的地の手前まで自家用車で行って駐車し、そこから鉄道やバスに乗り継ぐ移動方式。
パーソントリップ調査	都市交通の実態を把握するため、交通の主体である「人(パーソン)の動き(トリップ)」に着目し、交通目的や利用交通手段、移動の起終点の場所など、調査日1日の全ての動きを調査するもの。

項目	説明
バスロケーションシステム	バスの位置情報をGPS車載器でリアルタイムに把握することにより、バスの現在位置、運行状況、遅れ情報等の提供を行うシステム。
パターンダイヤ	毎時何分など、一定期間に同じ形式のダイヤが繰り返されているダイヤのこと。利用者にとっては、同じダイヤが繰り返されているため、記憶しやすいというメリットがある。
ビジョン	未来像のこと。静岡県地域公共交通計画では、2050年頃を想定し、将来、目指す姿を描くもの。
ビッグデータ	コンピュータや通信機器などの高機能なデジタル機器が仕事や暮らしに広く利用されることにより、日々刻々と記録されているさまざまなデータの巨大な集まりのこと。
福祉有償運送	タクシー等の公共交通機関によっては要介護者、身体障害者等に対する十分な輸送サービスができないと認められる場合に、NPO、公益法人、社会福祉法人等が、実費の範囲内で、営利とは認められない範囲の対価によって、乗車定員11人未満の自家用自動車を使用して会員に対して行うドア・ツー・ドアの個別輸送サービスをいう。
プラン	計画のこと。静岡県地域公共交通計画では、5年間の具体的計画であり、実施すべき施策を掲げるもの。
法定協議会	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、地域公共交通計画の作成及び実施に関する協議を行うため設置する協議会。
ホームドア	駅のホームから線路に入れないように仕切りを設け、列車ドアと同じ位置に設けたドアを列車ドアと連動して開閉する仕組み。
モータリゼーション	自家用車が大衆に普及すること。
モード	交通手段のこと。
モビリティ・マネジメント	【Mobility Management、略称MM】一人一人のモビリティ(移動)が、社会にも個人にも望ましい方向(例えば、過度な自動車利用から公共交通・自転車等を適切に利用する方向)に自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策。
問題	掲げた目標と現状との差(ギャップ)
問題点	問題全体の中の一部であり、改善可能なこと、手を打つことができること
ユニバーサルデザイン	【Universal Design、略称UD】障害の有無、年齢、性別、国籍、人種等にかかわらず、様々な人々が気持ちよく使えるよう都市や生活環境を計画する考え方。
ラストワンマイル	最寄りの駅やバス停から、自宅等の最終目的地までの移動。
立地適正化計画	人口の急激な減少と高齢化を背景に、医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直し、「コンパクトなまちづくり」と「公共交通によるネットワーク」の連携の考えで今後のまちづくりを進めるため、都市再生特別措置法に基づき、市町村が、居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等の様々な都市機能の誘導により、都市全域を見渡したマスタープランとして作成する計画。